

**質問 20 人権・同和教育に関してご意見ご感想があればお聞かせください。**

調査票の最後に自由に意見を記入する欄を設けた。記入者は356人あり、全体の23.5%の人が記入した。「人権・同和教育を一層推進すべき」というような積極的・肯定的な意見とともに、「寝た子を起こすな、そっとしておけば差別はなくなる」というような人権・同和教育に消極的・否定的な意見も多く見られた。

消極的・否定的な意見は、偏見、誤解、思い込みに基づくものも多く、また、20才代、30才代というような若い世代でも見られ、今後の人権・同和教育推進の課題といえる。

以下、記入のあった内容のいくつかを紹介する。

**1 人権・同和教育に積極的・肯定的な意見**

- (1) ふとした瞬間に、自分が差別をしてしまっていたことがあったのではと考える時があります。でもこれは、研修会や講演会、懇談会等を通じて学んだことがあるから出てくる考えなのだと思います。学習会を経験された方の声や、学習会の風景、雰囲気が、色々な人々にもっと伝わればよいと思いました。
- (2) 人権・同和教育をすることによって、差別することはいけないと意識されるが、それと同時に差別を知らなかった子どもに対して、差別が生まれてしまう事があるのではないかと思うところもある。しかし、実際に行っていないと対処できないところもあるので、学習をしていく必要があると思った。差別をなくすには一人一人の意識は大切だが、地域社会全体のサポートも必要になると思いました。これからも差別や間違った考え方をなくすため、運動をしていく必要があると思う。
- (3) 小・中学校の教育に、力を入れていると思います。小さい頃から知っていけば、大人になっても意思があるのでもっと取り組んでいけばいいと思います。
- (4) 人権、同和教育どちらも他人事ではなく一人一人が自分の問題として受けとめることができれば、差別もなくなると思う。自分に置き換えて考えることが大事だと思う。
- (5) 正直、今現在部落差別があるのかということが分かりません。でも、学習会などで話を聞くと未だにあるということが分かります。ということは、これからも一人一人が、地域全体が学習に取り組む必要があると思います。
- (6) まだまだ「部落差別なんてもうないでしょ」「部落の人か」などと発言する人を見かけますが、正しい知識を身につけることで私も考え方が変わりました。子どもたちにも正しい教えをしていき、いざ、差別がある場面や、それに近い場面に出会ったときに正しい対応ができるようにしていかななくてはならないと思います。それが大人の使命だと思います。「もうないから・・・」などと町議会などでの発言が聞かれます。何を知られておられてそういう発言をしておられるのか分かりませんが、差別をなくす活動は、続けていかなければならないと思います。
- (7) 建前にしか捉えられず、実際差別がなくなっていなくてイライラさせられる。部落差別を問題にすることはいいが、一人一人の人権も大切なので、目に見えて解決できるように早急な行動をとるようにしてほしい。
- (8) 社会には部落差別をはじめとして様々な差別が現存している。女性差別、障がい者、在日韓国人に対する問題。全てが差別される側の問題ではなく、差別する側の問題であるが、

- そのことが理解されない。差別される側が苦しめられているのは、苦しめている人（差別する人）の問題なのだが気がつかない（つけない）から差別していることさえ分からない。なぜ気がつかないのか考えたり、議論することが差別をなくすことにつながると考えています。
- (9) 自分は関係ないと思っている人でも、知らないうちにかかわっている場合もあると思う。常に意識を持つことも大切であると同時に、研修会等に参加して学ぶことも必要だと思います。
- (10) 自分が部落問題でとても悩んだことがないので、自分のこととして考えるのは、考えても考えても実感がもてない。しかし、研修、講演などで自分の考えと違う考え、体験談を聞き、差別の実態を知っておくことは大切だと思う。大きなことはできないが、まずは小さなことからでもしていきたい。部落差別、人権問題は自分とは関係ないという考えだけは持ちたくない。
- (11) 教育を通して、みんなが本気で考えるようにならないと、差別はなくなるのではないかと思います。
- (12) 部落懇談会で、後ろ向きの発言「建前で話す必要はない」など、声を大にして叫んでいる姿を見て、近隣住民の村人に対する思いや、その人の人生を垣間見てしまった。否定することは決してしてはいけないが、自分の思いやPTAで学習してきて、親としての思いなど自分の言葉で話すことができた。研修に何度も出ているうちに、知らず知らずのうちに自分も何かしなければならぬと思い、意見しました。年代や、その人の今や昔の環境によって、考え方はいろいろですが部落懇談会は意見交換をする大事な会です。PTAの研修や今の子ども達の様子など、地域の方にわかってもらえる絶好のチャンスだから毎年必要です。
- (13) 「同和」教育のおかげで自分を解放したり、様々な課題や矛盾に気づけたりしてきた者として、「同和」教育が後退することはとても残念ですし、現状では人権保障そのものが後退させられる風潮もあり、危惧しています。
- 「誰もがいきいきと幸せに生きられる世の中」を作るためにさらに啓発や学習機会を増やし、人権の大切さを実感できるようにしていくべきです。その意味でも「町報」が人権についての記事をほとんど載せなくなったことや、研修会等を減らしていることが納得できません。町内での差別事象についても、町民に隠しているという印象があります。
- (14) 学校での学習はもちろん、企業などでも取り組んでほしい。
- (15) 懇談会等社会教育を継続し、なるべく多数の人の参加を得て、皆が考え、行動できるようになることが重要であり、自分自身の問題でもあると思う。
- (16) 人権・同和教育は、小・中学校では熱心に行っているが大人になると学ぶ機会が激減してしまう。また、熱心に人権・同和教育に取り組む人とそうでない人の差が激しい。もっと町民が一丸となって考えていかなければならないと思うが、そういった政策がとられていない。現に質問19の条例についても初耳である。役場はもっと、積極的に対策を行うべきである。
- (17) 人権・同和教育は本当に奥が深く、まだまだ勉強不足です。毎日の生活の中でも相手に対する思いやりがあれば、暴言をいうことも無いのですが、ついつい相手を傷つける言葉を言ってしまう自分に反省しています。
- (18) 人権・同和教育の取り組みについては賛同します。しかし、人権問題と同和教育の本質は中身が違い、内容も広く多いと思います。同じテーブルで取り組む経緯は理解できますが、同和教育から基本をそらさず取り組みを行うことが重要だと思います。そこから出る問題は公開しながら対処すればよいと思います。

- (19) 口だけ上手なこと、綺麗事を言っている人が多いと思う。心から人を大切にするような人間作りが大切だと思う。偉い人でもうわべだけの人が多いと思う。部落問題はまだまだこれからだと思います。行政の方が中心になってやっていただかないとダメだと思います。

## 2 人権・同和教育に消極的・否定的な意見

- (1) 部落差別はもうないのだから、同和教育もやらなくていいと思う。部落差別撤廃の条例があるけれど、今でも部落差別はあるのですか？やりたい人だけが同和教育など受ければよいと思う。正直どうでもいい。子どもにはあまり受けさせたくない。紙の無駄遣いは止めてください。本当に興味がないです。
- (2) 部落差別があったことは事実なのだから仕方がないが、未だに引っ張りすぎだと思う。自分は相手がどこの部落かということだけで、好きになったり嫌いになったりしないので、逆の意味で部落差別という言葉が嫌い。昔あったことを今の子どもたちに教えても無駄だと思う。同和教育そのものが無駄だと思う。
- (3) 差別事象はあってはならないことだが、差別をなくす運動自体が差別を助長させている。実際、同和教育が少ない地域では部落問題に対してあまり認識がなく、差別的発言もないように思う。若い世代ほどそういう認識は薄れていっているのに、また差別を根付かせるだけだと思う。逆差別の問題もあり、根は深い被差別部落と違って区別していること自体がそもそもおかしいと思う。私は被差別部落出身ではないが、友達づきあいや恋愛結婚に差別を持ち込むことはない。
- (4) 私たちの世代はあまり同和について差別をしたことがありません。子どもの頃も年上の方が制度を作ったので、知っている人は差別すると思う。私はこれからはしないと思う。権利もない同和の人も傷は深いと思うが、負けないで心暖かく人間性を高めてほしい。
- (5) 同和問題の取り組みは、止めたほうが良いと思う。余計に大きくなる（そっとしておいたほうが良い）。部落の人に特別扱いをしてほしくない（裕福な人が多い）。どっちが差別されているか分からない。
- (6) 同和教育に関して、被差別部落の就職、生活水準も一般と変わらない。今現在も運転免許、教育無料とか聞きますがこれが本当なら、一般の生活が大変になっている中、良い暮らしをしているのは逆差別だと思う。全国的に補助を停止している中、琴浦町がいつまでも補助しているのはおかしい。税金からの補助はもうやめるべきだ。
- (7) この活動をやめることが町の発展になる。勇気をもってください。結論がでるわけでもないものをお金と時間をかけて、いつまでパフォーマンスするのですか。逆差別もあるときがある。平等なはずなのにいつまで補助金を出すのですか。活動すればするほど人間が不幸になるように思う。何十年かけても答えが出ないことに100%正しい答えはない、差別の線引きもしない。行政機関は手を引いてほしい。（やめてほしい）活動を！
- (8) いくら同和教育研修をしても、昔からの信念を持ち時代をすごしてきた者にとっては、考えを改めることは難しいです。特に結婚となると、他人事ならば答えを出すのは簡単だけれど、いざ自分の身にかかるとう頭を悩ましてしまい、答えを出すのが難しくなってしまいます。
- (9) 好き、嫌いなど物事の差を感じるのは人間の本能だと思う。多くの人が本心を言えない、建前で行動している人が多い。多くの集会は仕方なく集っている人が多い。活動をやめようという勇気のある人がいないのが不幸。同和活動は考え方が狭いと思う。もうやめましょう。もっと自然体で広い心を持って皆が仲良くなることを考えたら？時間とお金の無駄。